

平成 21 年 3 月

Mamun Mahabub Hasan 学位論文審査要旨

主 査 大 濱 榮 作

副主査 中 島 健 二

同 渡 辺 高 志

主論文

Cerebral ischemia promotes rich pseudopalisading necrosis in the rat C6 glioblastoma model

(ラット C6 膠芽腫モデルにおいて脳虚血は豊富な偽柵状配列構造を伴う壊死巣を形成する)

(著者：Mamun Mahabub Hasan、紙谷秀規、木下雄介、田渕貞治、Brian Wasita、渡辺高志)

平成 21 年 Neurologia medico-chirurgica 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、C6 膠腫細胞を Wistar ラットの 大脳皮質下に移植したモデルを用い、その 4 日後に中大脳動脈結紮により脳梗塞を作製し、腫瘍の形成ならびに増殖を、容積の計測、組織学的および免疫組織化学的に検討したものである。その結果、脳虚血負荷により腫瘍容積は有意に増大し、組織学的にはヒト膠芽腫で見られると同様の偽柵状配列構造の形成が顕著であった。さらに、免疫組織化学により VEGF と HIF-1 の過剰発現が認められた。本論文の内容は、ラット C6 膠腫脳内移植モデルにおいて、脳虚血を負荷すると、ヒト膠芽腫の特徴である偽柵状配列構造を伴う壊死巣を作製できることを明らかにしたものであり、脳腫瘍領域において、明らかに学術水準を高めたものと認める。